

石工の魔女と 骨磁の乙女-精-

ディテール



---Drill Earring Company---



これまでのあらすじ

世にも美しき両性の石像を造り出す「石工の魔女」。

彼女の住む館を訪れた男は、魔女の女給^{メイド}を名乗る人物から、
魔女の恐ろしさとその力を示す昔話を聞かされた。

一介の村娘が魔女に出会い、

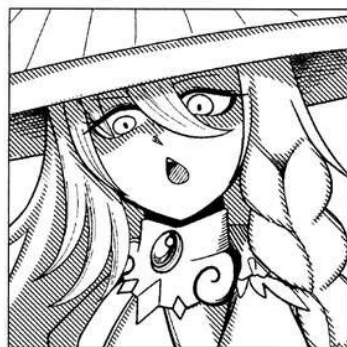
才能を見出され、ついには城下の騎士団長に引き抜かれ——。

それでも昔話は進み行く。

村娘の行く末は？ 女給^{メイド}の正体は？ 来訪者の男は何者か？

夜が明けるまでもう少し。

・主な登場人物



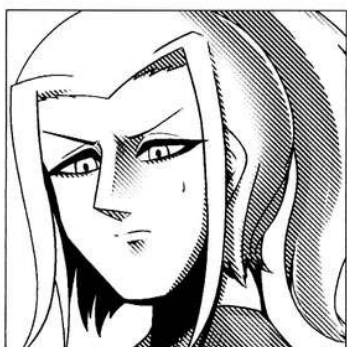
石工の魔女

美しい両性具有の石像(ガーゴイル)の伴侶を造り出す魔女。
少女のような姿だが千年単位で生きているらしいし、彼女自身も両性。
人間の文化やしがらみには全く興味がなく、良き“素材”を手に入れるために
国宝等の貴重な遺産を持ち去ることもあるが、彼女も彼女の周りの伴侶も
尋常ならざるほど強いので誰も阻止できた試しがない。



村娘

辺鄙な村で生まれ育つ村娘。狭い世界で一生を終えるはずだったが、
魔女の済む館に迷い込んだ結果、多くの美しいものに触れたことで
美しいものを見抜く審美眼の才能に目覚める。
年貢の季節に村を訪れた都の騎士団にその才を見抜かれた事で、
その運命は大きく変わることになる。

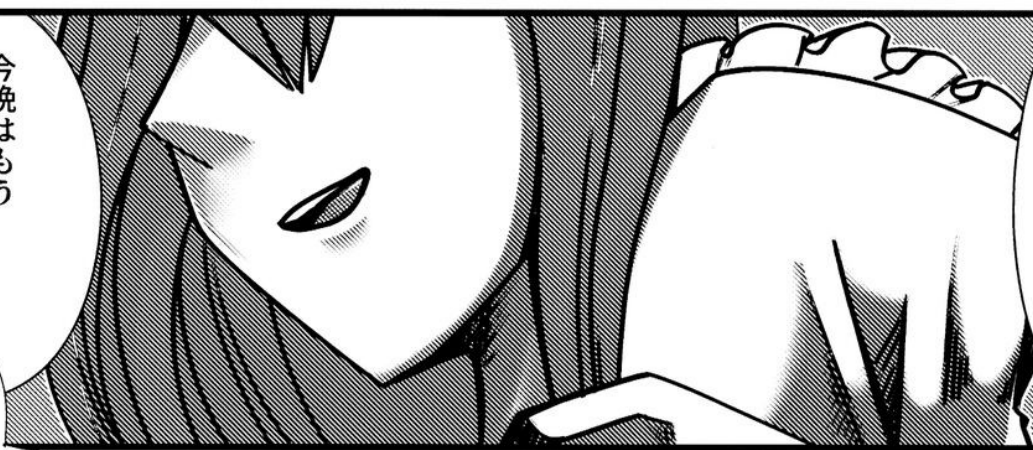


“金鷹”グラウロス・アレード

都の領主の元に仕える騎士団長。
武勲を重ねながら茶芸にも明るい文武両道の男。
村娘に茶をふるまわせたことで彼女の才を見抜き、
彼女に都の女給として勤めることを提案する。



……魔女様、
今晚はもう
戻らないかも
しれませんね



奥に宿泊用の
客間がありますので

今晚はもう
お休みになられては

いや、

君の話をも最後まで
聞きたい。



村娘が騎士の男に
城下に誘われ……

その後どう
なったのか？



老人の頼みを
どうか、

どうか
聞いては
くれないか？

かしこ
まりました

それでは……

聖剣国
エスパルデイエ——

百余年の歴史を抱え、
辺境も含めて三百万の
人口を抱える大国
です。

かつて魔の住まう
平野だったこの土地は
聖剣を携えた
騎士の手で開拓され

現在は周囲の小さな
領地を取り込み
拡大の一途を
辿っています

そんな国の
城下町に、

場違いな
村娘が一人、

足を運んで
おりました。



これが……

都会——！



少女がここに
訪れたその理由は

彼女の住まう
辺鄙な村での
奇妙な出会いが
きっかけでした。

森の奥に住む
石工の魔女の館に
迷い込み

美しい魔女ガール
の伴侶達の
手によって審美眼の
才能を育てられ、

その力を騎士団長の
アレード様に
見抜かれた結果……

村娘は彼の誘いを受けて
城内領主の館に住み込み

女給として奉公に出る
ことになったのです

——という
ことが
ありまして！

そのことを
魔女様に
伝えた時は——

城下に
働きに出る
ことに
なったん
ですよ！

てれり

そう。

しら

—
ですから、

ここにはしばらく
来れなくなります

あつ、でも！
絶対に顔を見せに
来ますから！

お休みが
取れた日には
必ず…

だから…
だから…！

…

…

…



ありがとうございます
ございます…



その言葉の意味はまだ
わかりませんでした…



…
勿体ないわね



大丈夫？
ち●ぽ揉む？

はわわ…♡

♡
♡
♡



私たちも
さみじい！

ウウ
はわわわわわわわわ

かくして—

村娘のメイド暮らしが
始まったのでした。

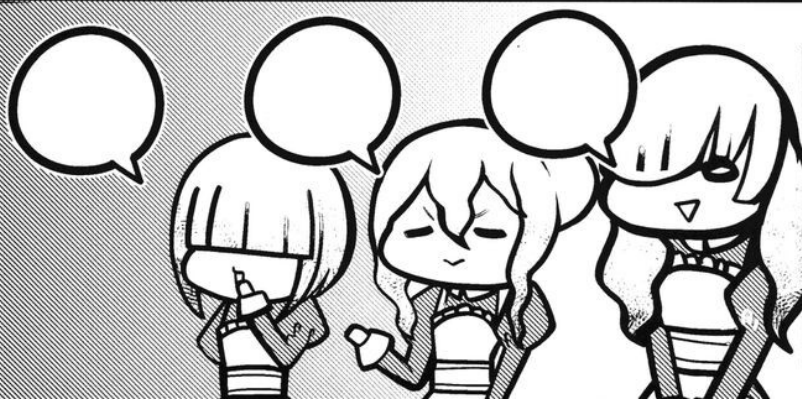


初めてのころは
配属決めとして
メイド長たちから

仕事をいくつも
任されたことにも
ありました



今思えばあれは
新人いびりのような
ものでしたが――





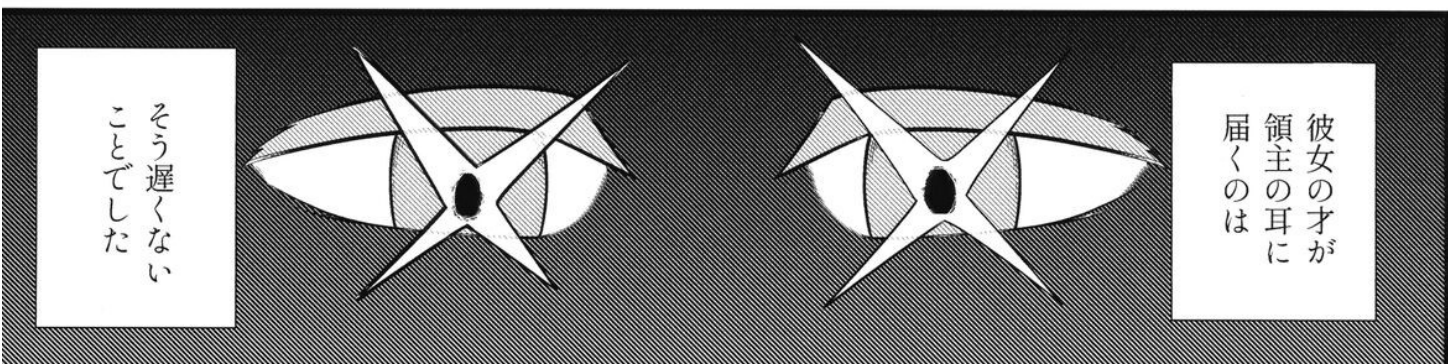
彼女はその才能と
魔女様との暮らしで
得た知識を
存分に活かし、



出された難題を
たやすくこなして
いきました。

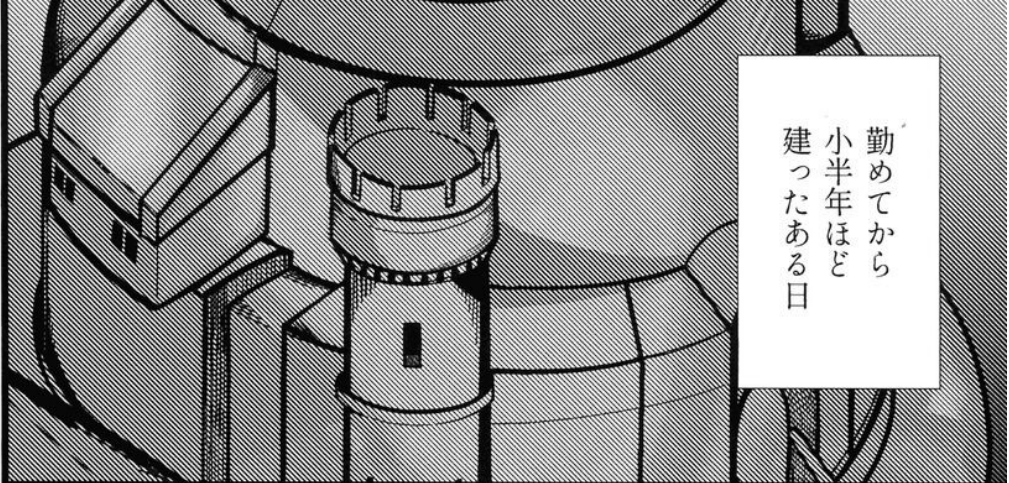


とても田舎の村娘とは思えないような
端麗な振る舞いを
損なうことなく



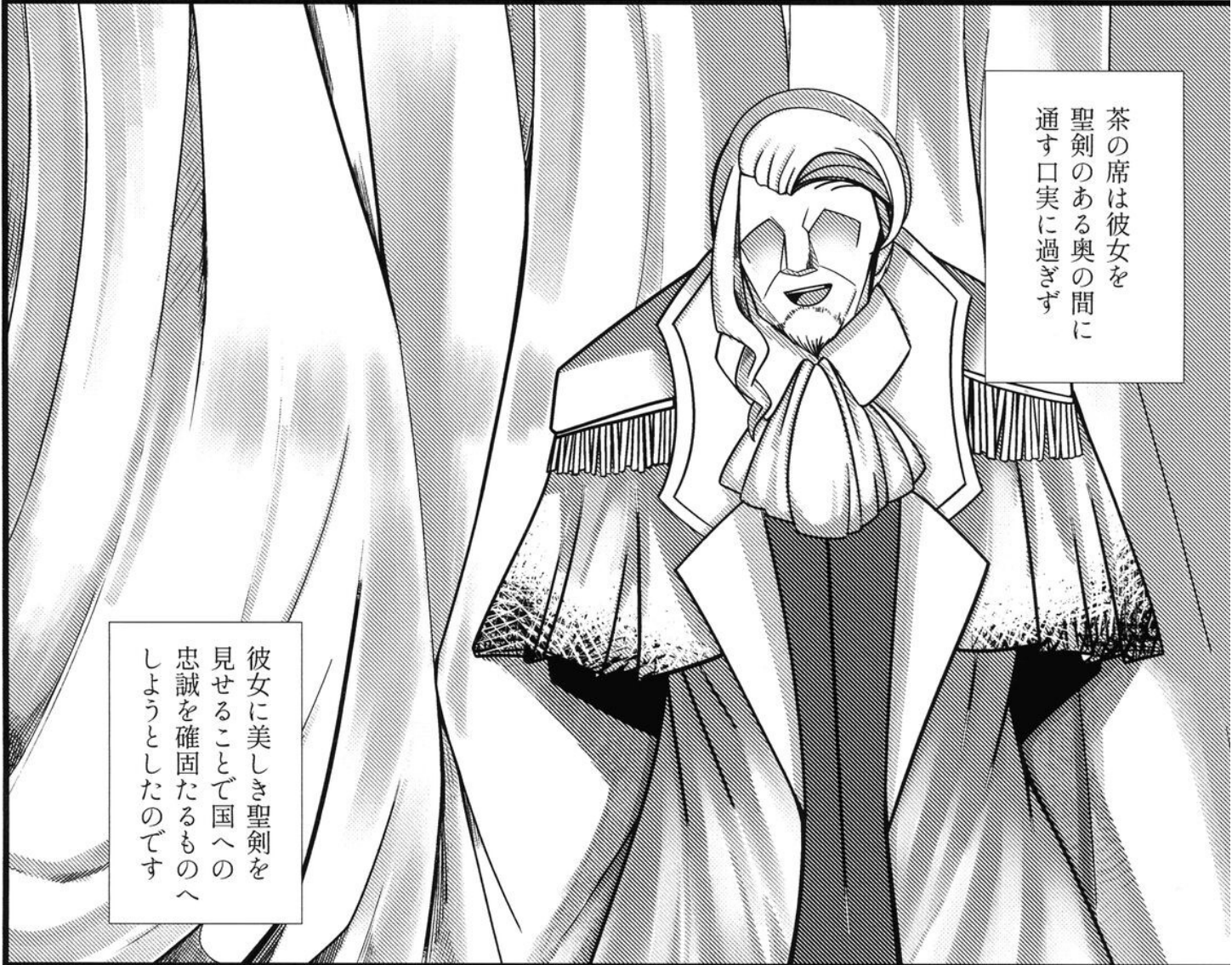
彼女の才が
領主の耳に
届くのは

そう遅くない
ことでした



勤めてから
小半年ほど
建ったある日

領主様から直々に
茶に招かれました。



茶の席は彼女を
聖剣のある奥の間に
通す口実に過ぎず

彼女に美しき聖剣を
見せることで国への
忠誠を確固たるものへ
しようとしたのです



けれども、それは
人間の価値観での
「美しさ」でしか
なかったのだ。

その剣を初めて
一目見た時――



そこで村娘は
気が付いて
しまいました。



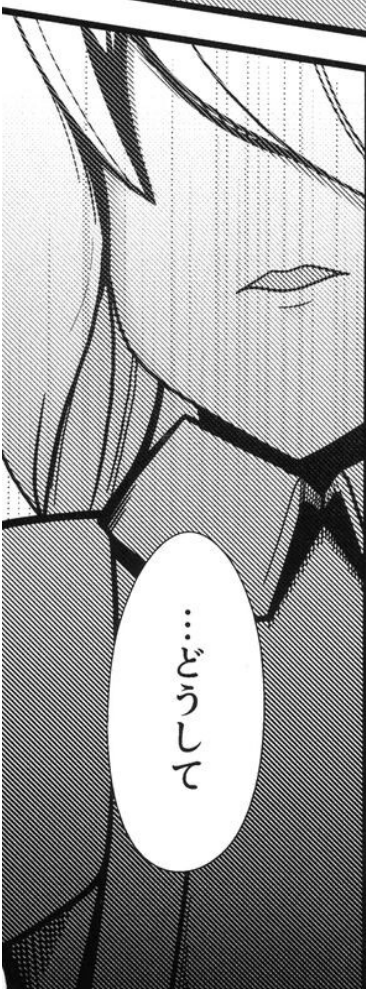
自分の審美^{さいのう}眼故に
気が付いてしまった
とある事実、

伝説の聖剣に
あつてはならない
事実——。

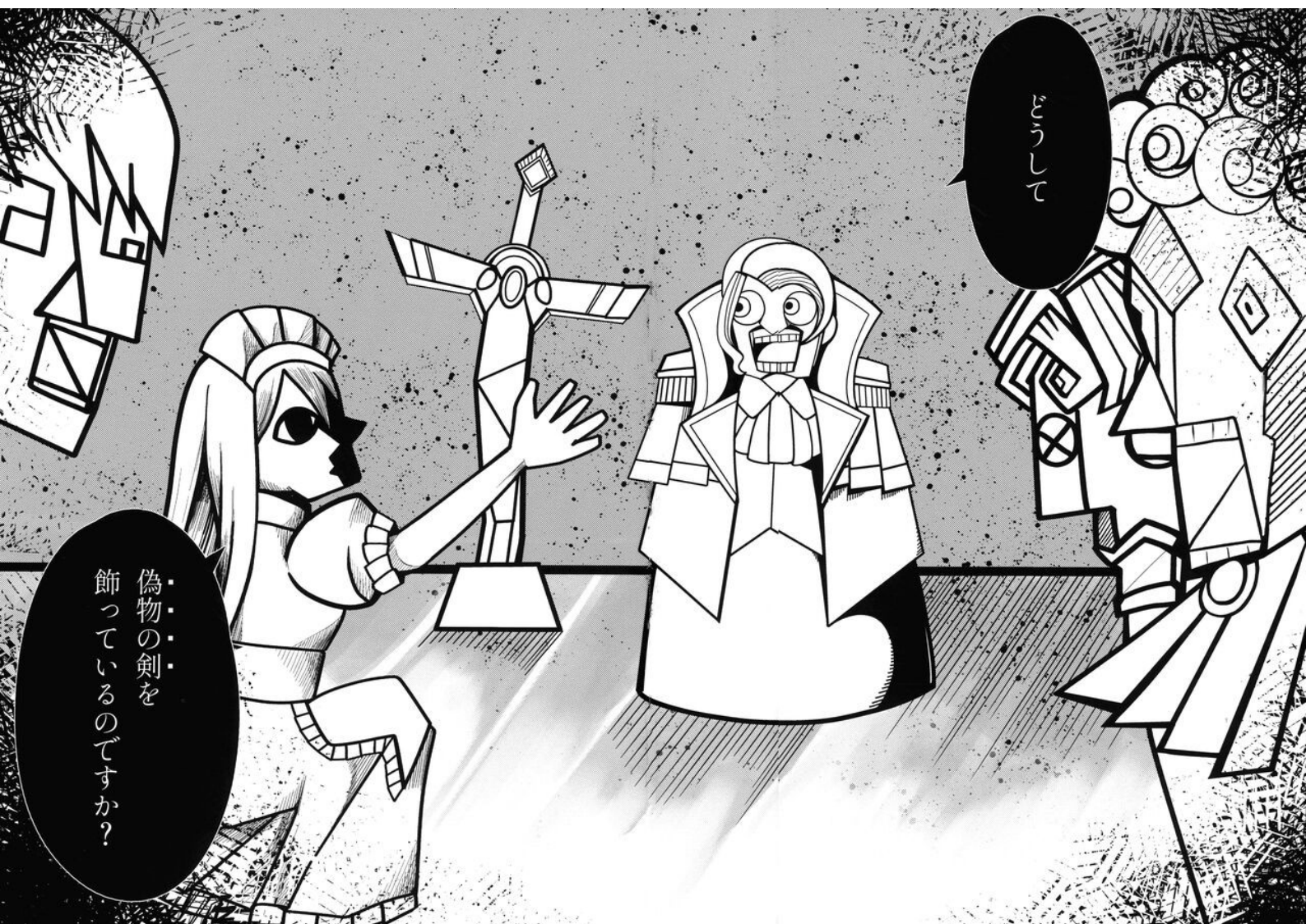


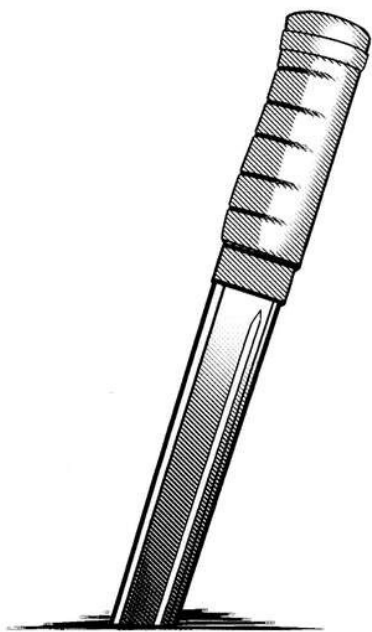
だもん、だもん、
言ったら
忘れる
このままでもいい

嗚呼、けれども——



……どうして







ええ……
彼女の人生は
狭かったのだ
タブーについて
無理解だったのです



それで彼女は
虎の尾を踏んで
しまったのか



しかしその「騎士様」は
聖剣のことを
教えなかったんだね

国の象徴でしたから
言わずとも理解してると
思ったのでしょうか

……無責任な男だ
さぞその子も
迷惑だったろう

わた……村娘も
他人の考えには
無頓着でしたから

気にしていないと
思いますよ？



話を
続けましょう

村娘が
どうなったのか？

その時
騎士様と魔女様が
何をしていたのか？

村娘が聖剣の真偽を
暴いてしまった
その数日後、

石工の魔女の
館では――

大変だわ――!!

魔女様が

近年まれに見る

スランプだわ!!

とんより

どうして!?

私何か

気に入らない

ことをしたから!?

いえ、きつと

新しいアイデアが

浮かばないから

いいえ!

昨日の私が

激しすぎたから――

珊瑚の乙女

琥珀の乙女

音叉の乙女

いいえ、
どれも
違うわ



例のウワサが
気になるんでしょう？

指輪の乙女

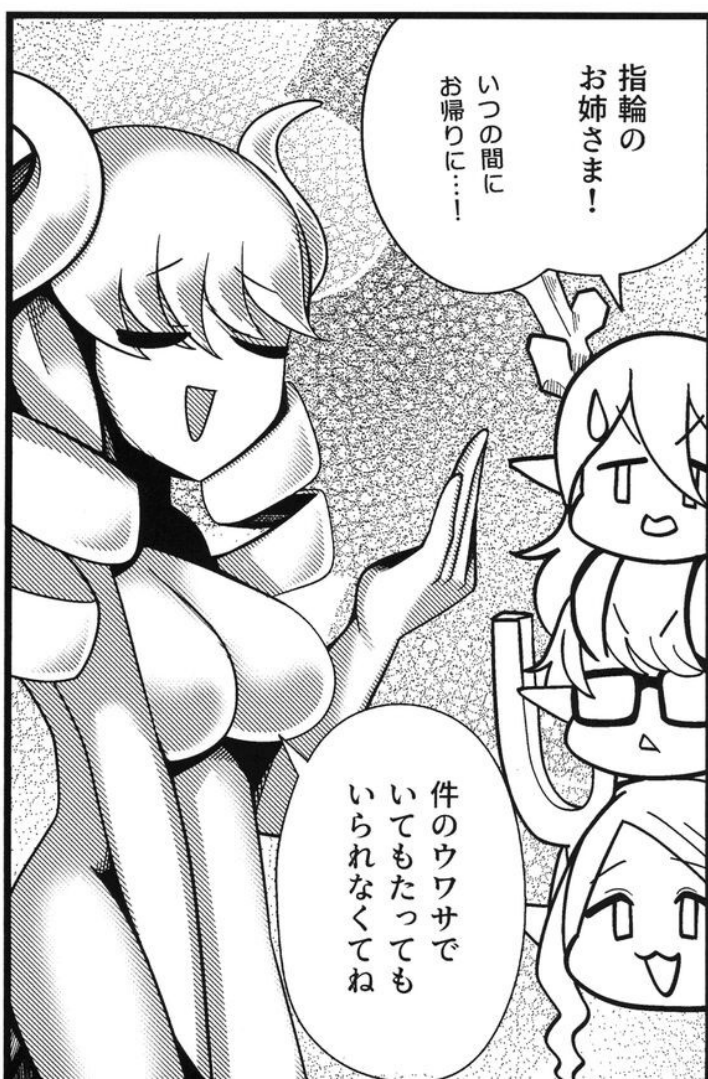
聖剣国のメイドが
捕らえられたってウワサ。



それで——
魔女様？

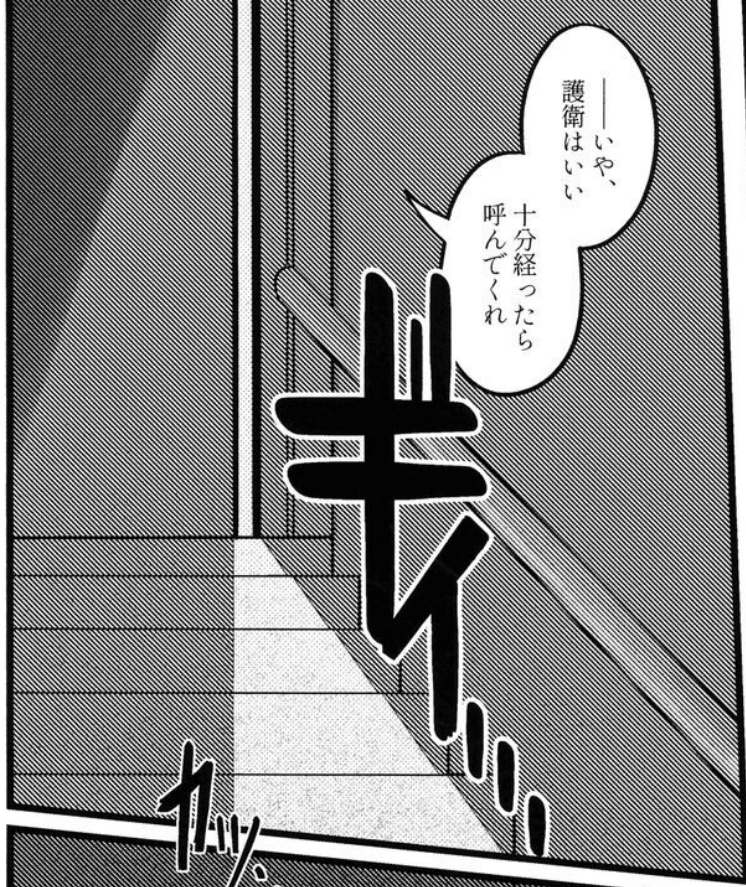


あなたはあの子を
どうするつもり？



指輪の
お姉さま！
いつの間に
お帰りに……！

件のウワサで
いてもたっても
いらなくてね



アレード様…

あの……
どうか話を

話ならもう
聞いている

牢に繋がれて
からも君は、

ここに來た者
全員に触れ回った
そうじゃないか

あの聖剣を本物に
改めるべきだ、
と

領主様や
看守、

果ては食事を
運んできた
使用人にまで…

事実だけを
述べるならば、

聖剣は確かに
偽物だった。

魔がはびこっていた
この地が人のもの
になった時

聖剣の魔力によって
魔が寄り付かぬよう
複製に改めた――

いわば「人の世」の
ための聖剣であった

つまりあの「聖剣」は
この国の礎そのもの

複製であっても
この国を束ねた
象徴に違いはない

その剣を公然と否定し
吹聴することは

国を根本から
否定するものだ

君は国を揺るがした魔女として

近いうち処刑されるだろう

撤回する気はないのか？

——頼む！

そう言ってくれ……!!

あれは幼心の
でまかせだったと
言うんだ！

今ならまだ
処刑されずに
済むかもしれない

ガッシャ

なぜだ!?

それは
できません

アレード様が
騎士であるのと
同じ理由です

アレード様が
騎士としての誇りを
持つように……

私にも
魔女様との出会いで
与えられた誇りがあるんです

美しいものは相応しい場所に
あるべき、そんな誇りが……

ですから、

ですから
領主様には

相応しいものを
お側に置いて
ほしいんです!



たとえ自分の命がかかっても
撤回はしません！
それが私の忠誠です！



……ならばもう

何も言うまい…

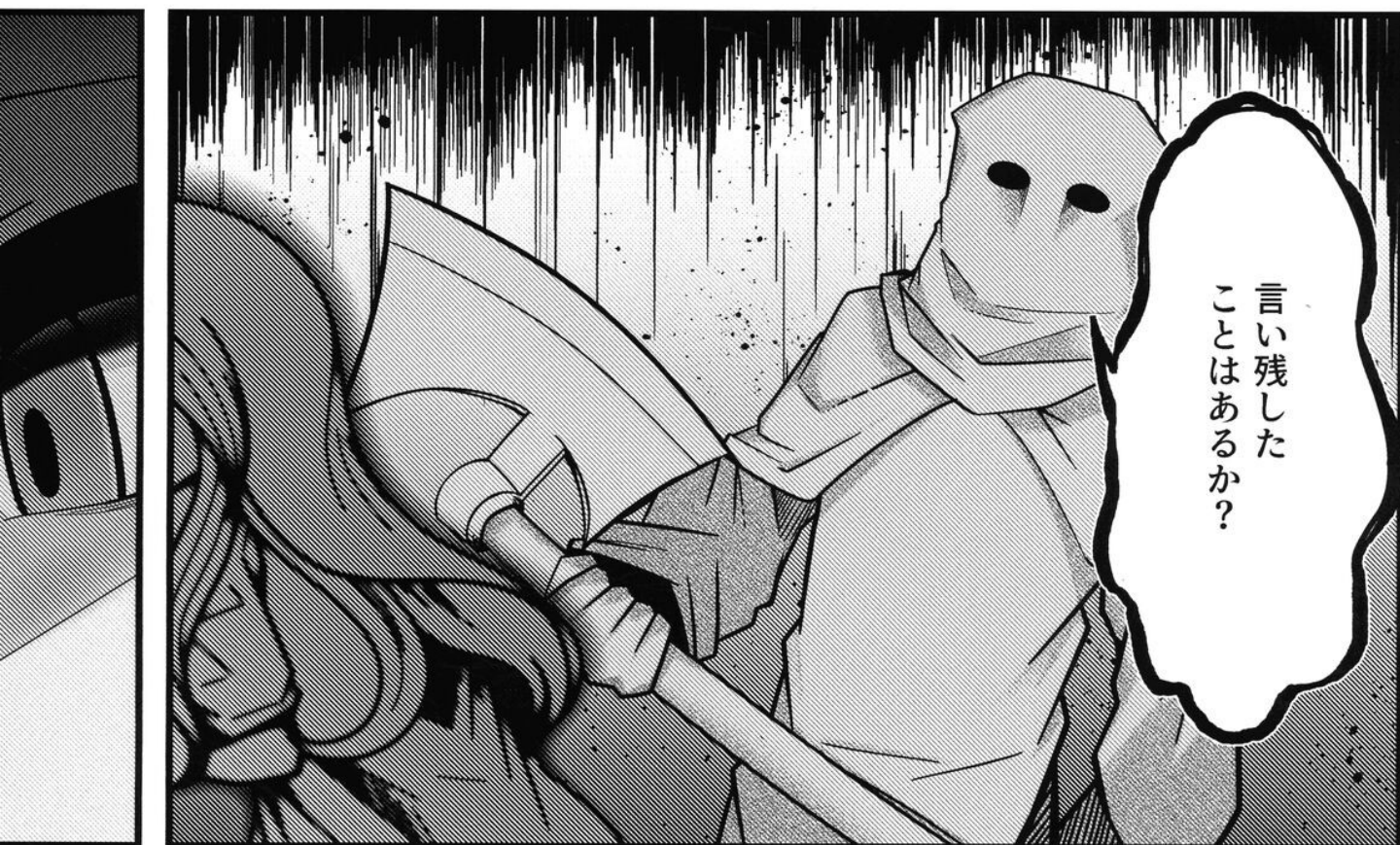
事態を重く見た領主の
判断により、
処刑執行日は早められ

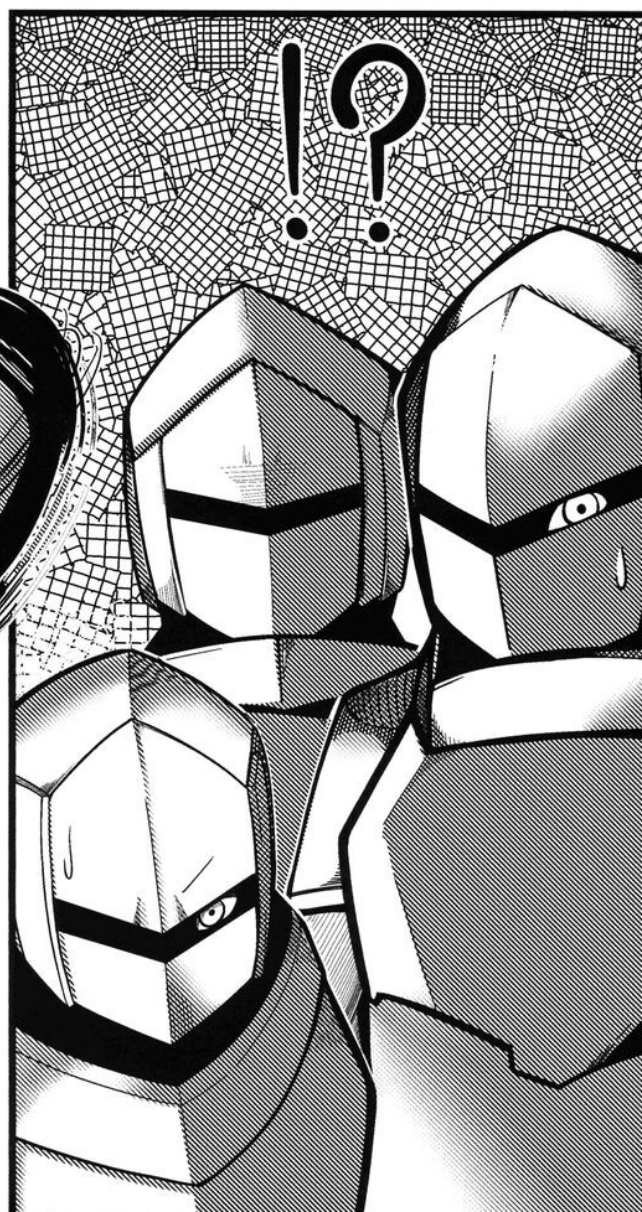
夜明け前の夜半、
市民の目に付かないよう

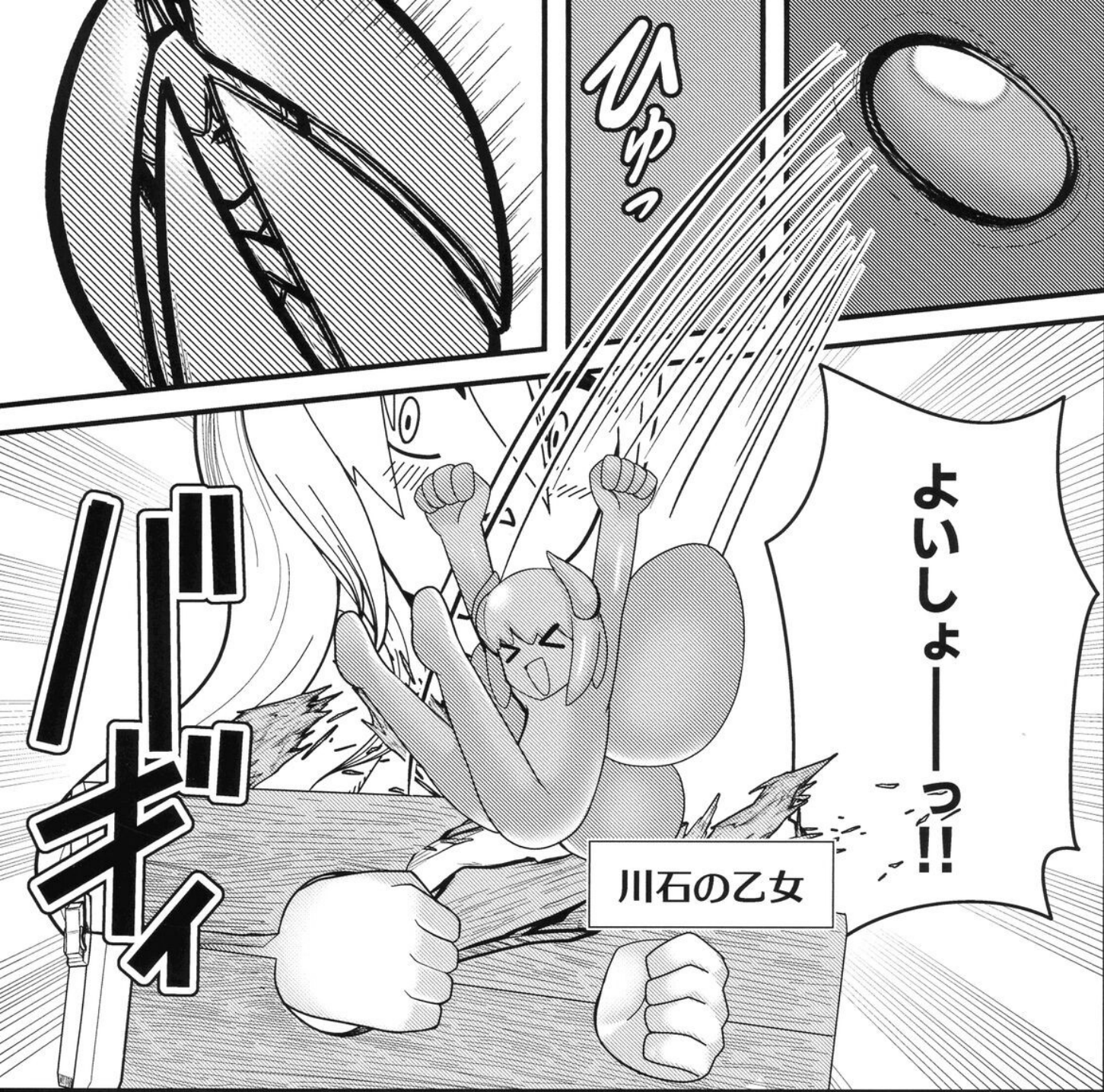
処刑は城下外れの
処刑場でひそかに
執り行われた。

領主と騎士団が
その周囲を取り囲み、
その中には……

アレード様の
姿も――。

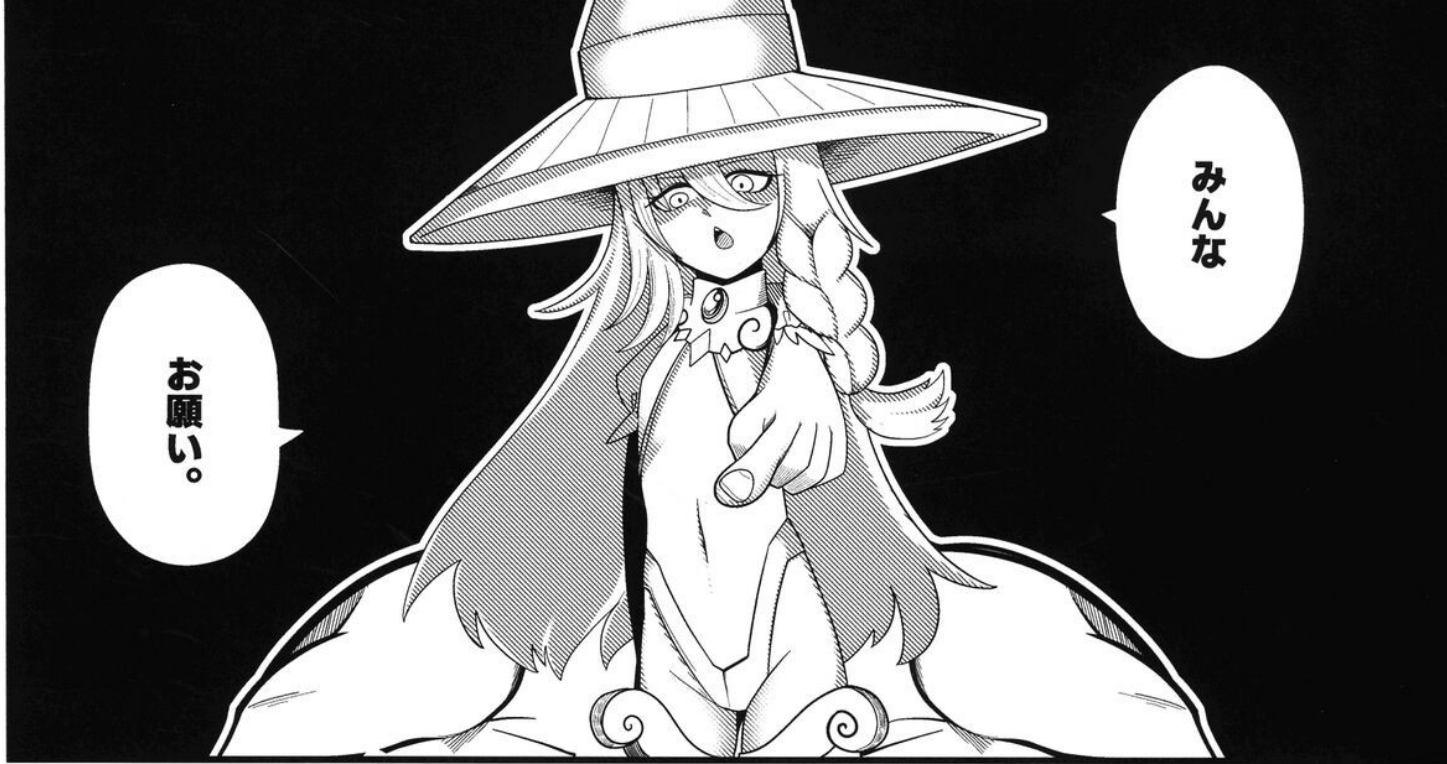






魔物の群れに
包囲されています！







防衛戦の結果は
火を見るより
明らかでした。



乙女の身体に
兵士たちの武器はまるで
歯が立たなかったのです。



材質の問題では
ありません。

美しき魂の形に彫り抜かれ
その形を保つのが
彼女たちの「法則」。

武力でどうこう
することなど
できないのです。

く…そッ！
化け物めッ！

かといって魔女様を
狙えば……

おつと！

じゅん

灼熱の乙女

おいおいおい…てめえら
アタシ達の魔女様に
なあに弓引いてんだよ……



覚悟できてん
だらうなア!!

領主様……

ご報告
いたします……!

鎧の接合部が
焼け融けて……

身動きが
とれません！

な……

なんということだ…

！

ゴ"ゴ"ズ"ゴ"ゴ"ゴ

素材を……

聖剣を譲って
いただきます

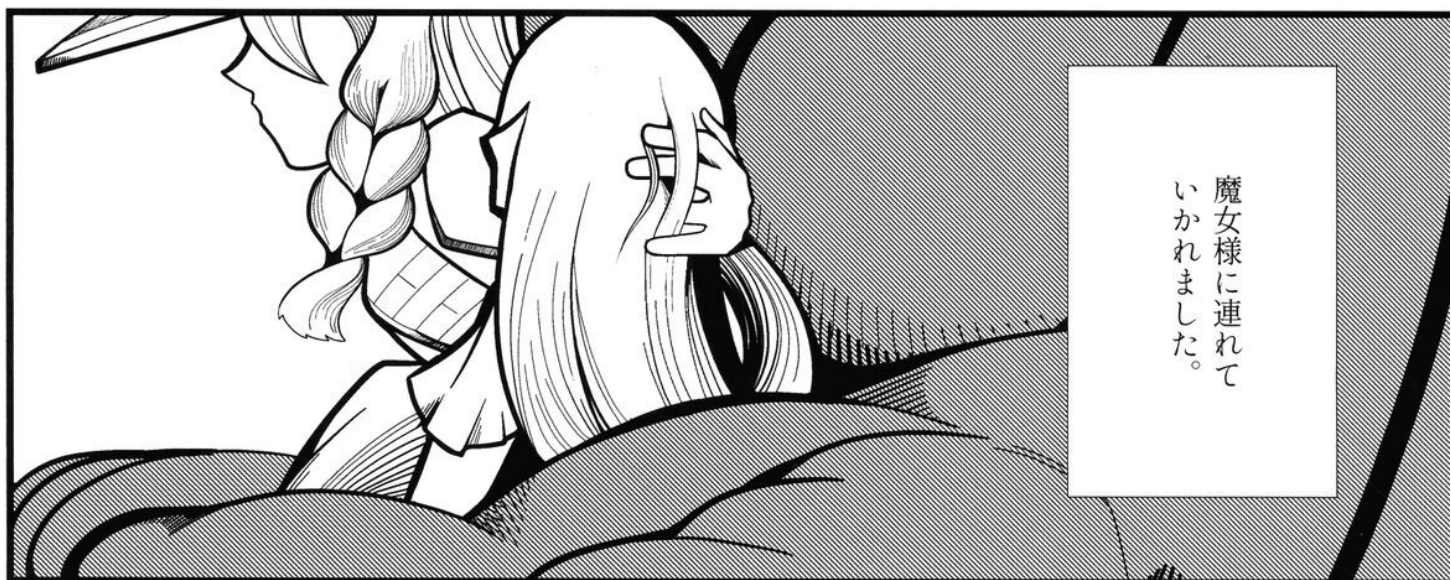




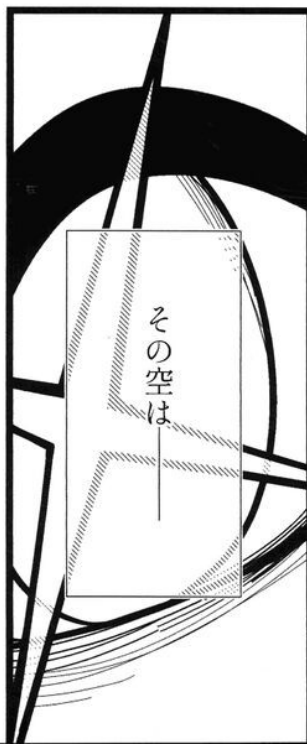
さあ、
帰るよ



そうして村娘は
あっさりと、



魔女様に連れて
いかれました。



その空は



魔女様の腕に抱かれて
森へと飛び立つ、



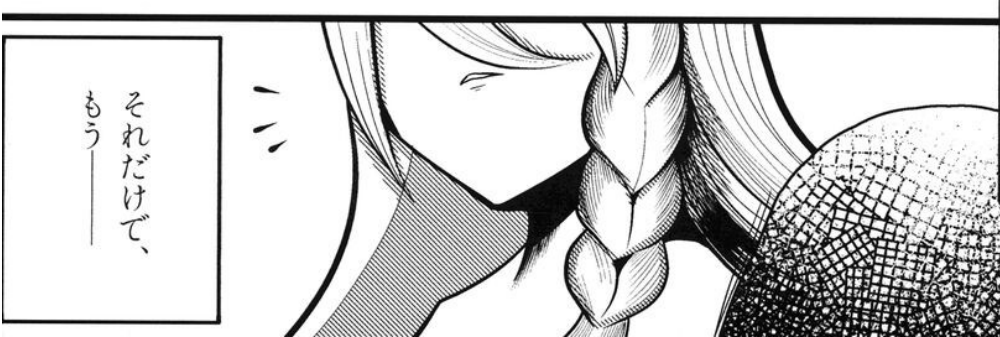
夜明けの空が、森が、世界が
あんまりにも美しくて――



嗚呼、こんなにも
美しい景色を、



最期に見ることが
叶ったのなら、



それだけで、
もう――

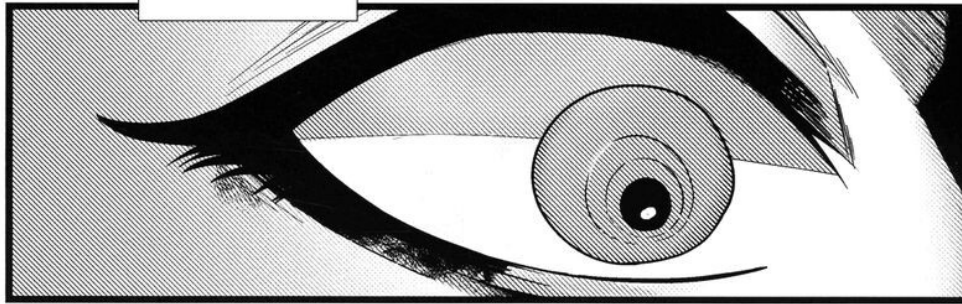


前夜の食事に毒を
混ぜられていた
村娘にとって、

幸福に足る
光景でした。



石工の魔女には
巧みな石工・木工の
技術があった。

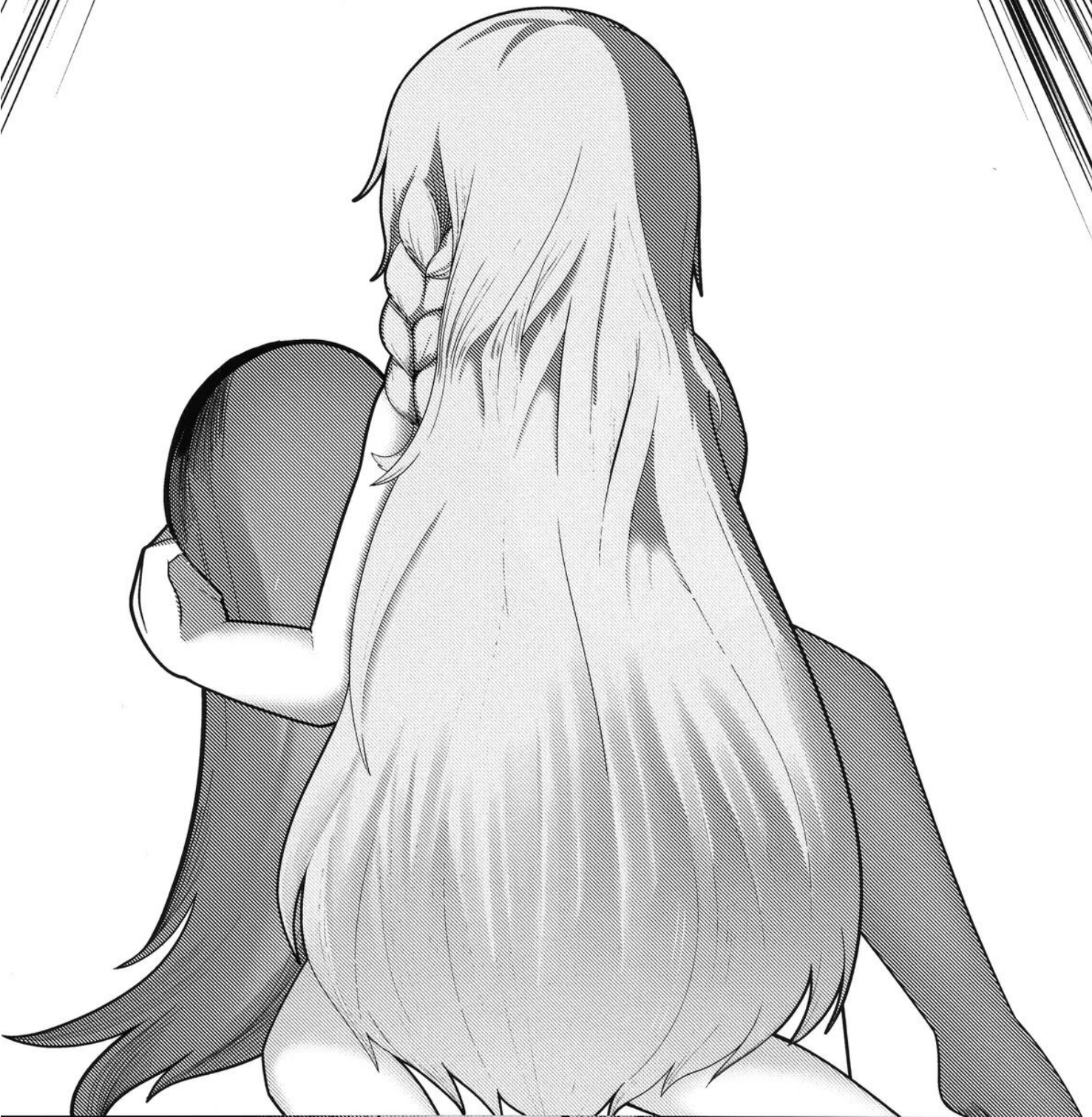


鍛造の技術も、
魔術もあった。



——嗚呼、
けれども。

けれど
人の命だけは――。



領主は罪人を
取り逃がし

幼き魔女達は
行方を晦まし

その後の彼女を
見たものは
誰もいなかった。

——めでたし、
めでたし。

……終わり？

これで終わり
なのかい？

ええ、
終わりです。

今までのお話も
お姉さま達から
聞かされた話ですし

一度区切りを
付けたかったんです

なので
「彼女の話」は
これで終わり。

ここから先は……

「私」の

お話です

今にして思えば、

魔女様は
村娘がああして
命を落とすのを

はじめから予感して
いたのでしょう

目を覚ました私が
最初に見たのは…

!?

私の素体
村娘の骨にノミを打ち据える

魔女様の姿でした

カツ

カツ

カツ

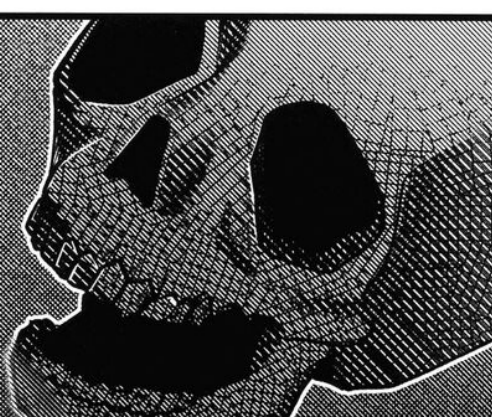
カツ

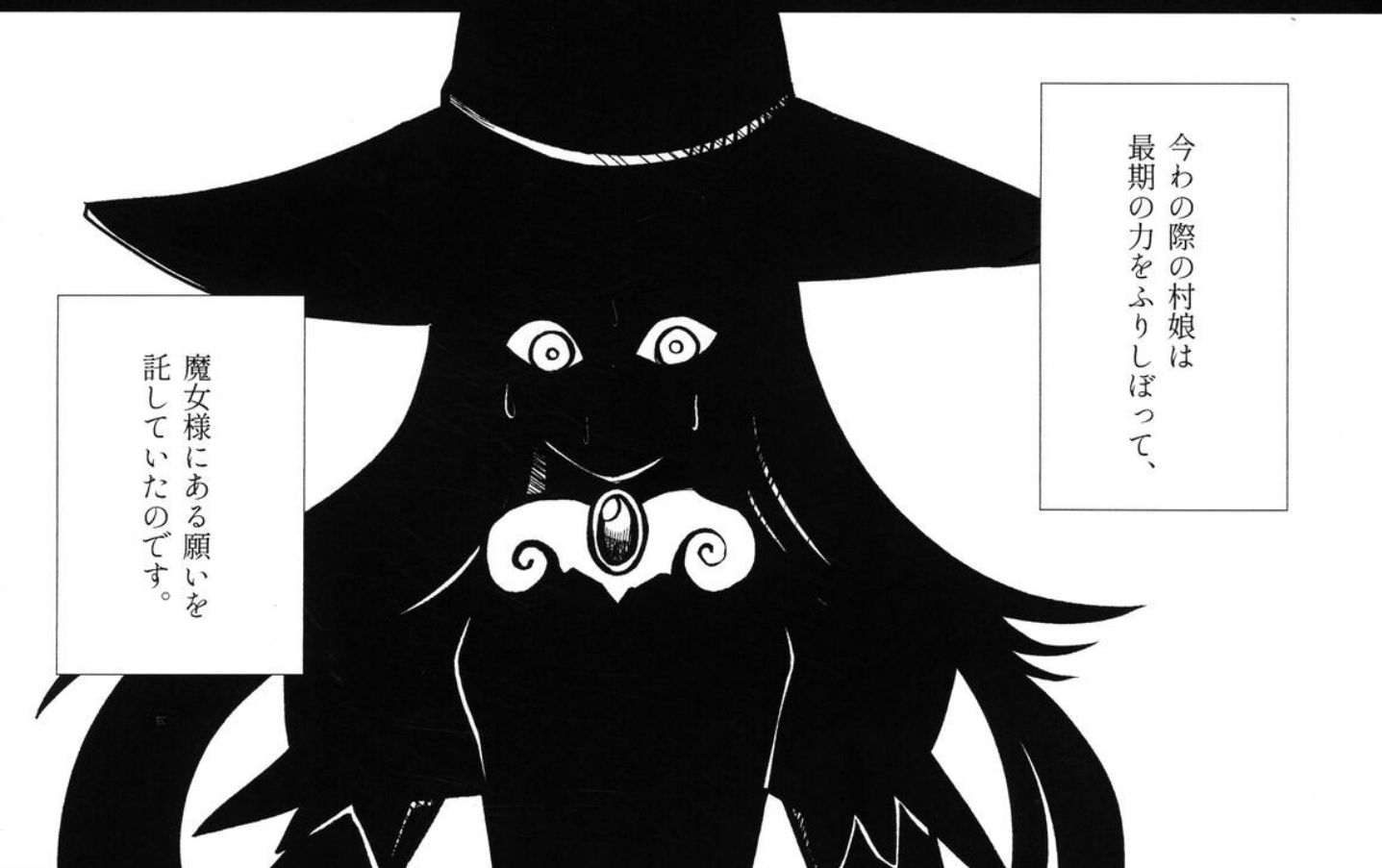
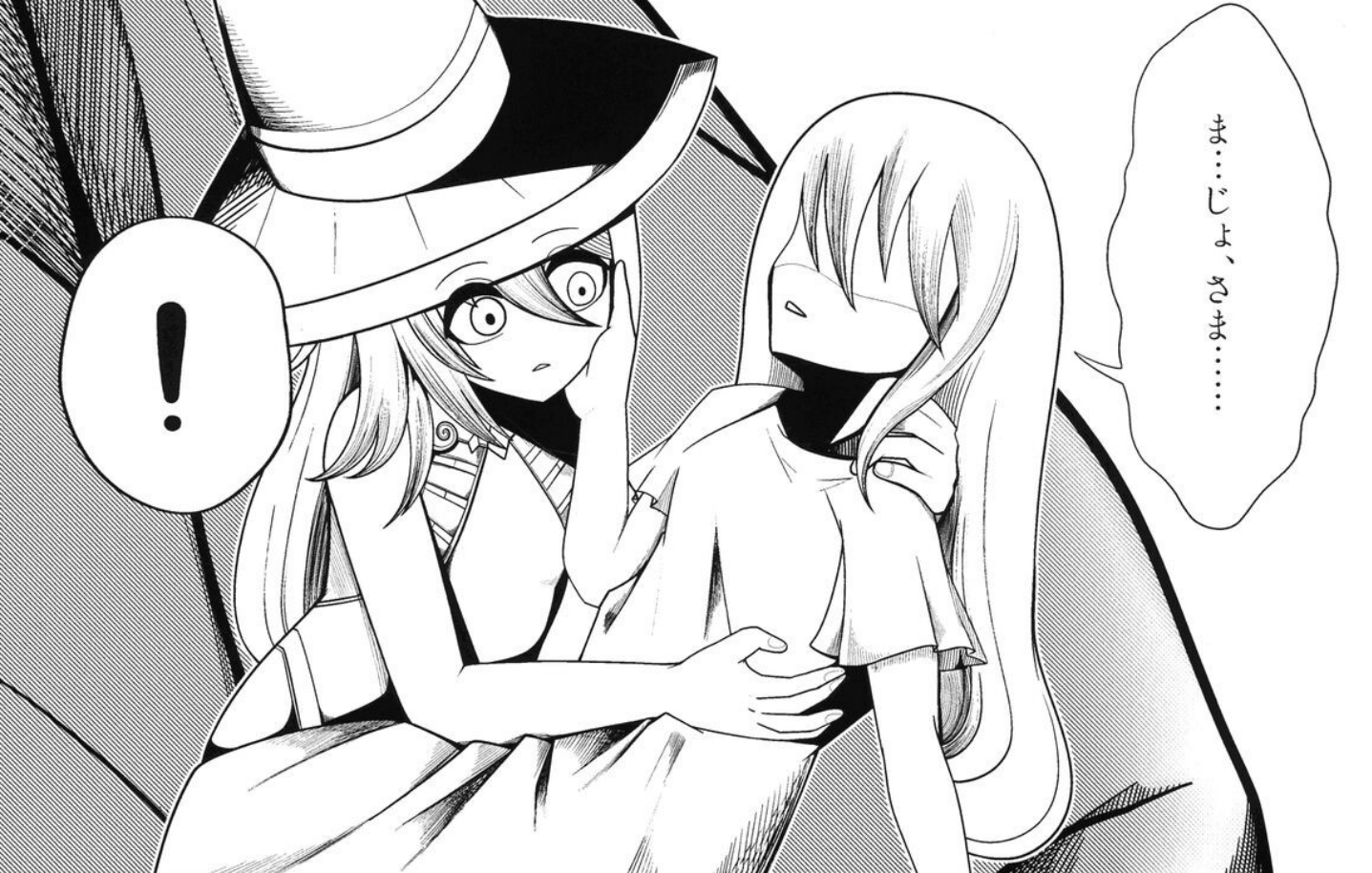
カツ

魔女様……

体とノミが
打ち合う音が
感じながら
訥々と思い出す、

骨に染み付いた
今わの際の
記憶



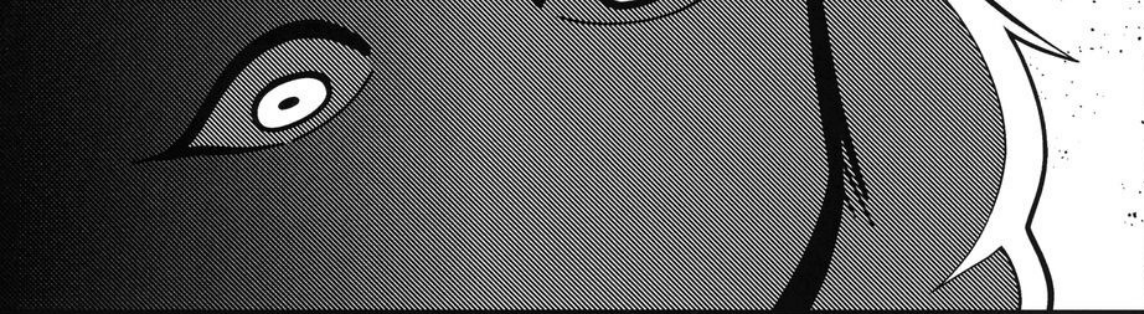


わたしの
からだを…

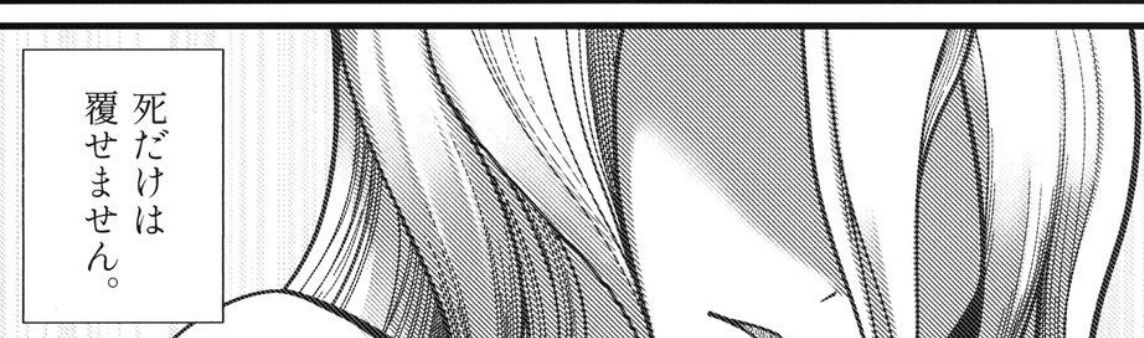
まじよさまの

およめさんに
してください……





石工の魔女と
いえど、



死だけは
覆せません。

けれど、



石工の魔女は、

剥製作りも
得意だったのです。

私の体は骨だけになり、
その骨も毒が回って
脆くなった末端は
取り除かれた。

そのたびに
繋がっていないはずの
身体が絶頂するのを
感じました。

残った骨を指でなぞり、
そこに何か線を引いたり
ノミで削り取ったり、

あッ、

気がついた♡

元々かわいかったけど...

もともと素敵だね♡

ねー♡

どんな泣き
になるんだろ...

はやく可愛い
妹になるといな...

可愛い♡

ねエ、彼女が生まれたら
僕が最初に抱いていい？

や、私も

したいよー♡

じゃあろんで
しょ、か♡

好き♡

好き♡

うんっ！

妹ちゃんも

楽しみにしてね♡

ねー♡

その間、姉達に
延々と愛を
囁かれていました。

無いはずの耳が
絶頂しました。

壊れるッ♡
脳みそないのに
あたまとけるッ♡

あぁあ
っっっ
♡♡♡



骨の形が整えられると
次は足りない部品を
揃えていきました。

遺灰を混ぜて焼かれた
磁器が灼熱の乙女の手で
丁寧に焼かれ



四肢の一部、関節、髪
伴侶として足りない
角や翼などを一通り
揃えると、



繋ぎ目に聖剣から
溶かして集めた
合金を塗り、
骨と具に合わせます。



妹を作る魔女様の
真剣な眼差し……♡

いつ見ても
素敵……♡

そうしている間にも、
私の魂は幾度となく
絶頂を繰り返しました。

がらんどうの肋の下に
白磁の心臓が
鎖で繋がれ、

骨盤に子宮を模した
陶が備え付けられた。

やがて眼窩に
真円に磨き上げた
美しき金剛石が
はめ込まれると――



魔女様の姿が
真っ先に
映りました。

新しく造られた私を
隅々まで愛そうとする

自らが生み出した美に
溺れることしか
頭のない蕩けた表情を
前にして私は……



胸の内の衝動を

抑えることが
できませんでした

ど

きつとこの衝動は
完成された瞬間に
湧き上がるのでしょう。

せりあがる情欲を
抑えることができず、
私は魔女様を組み伏せ、

そのまま…
そのまま…
そのまま…
♡

ドキ
♡

ドキ
♡

それはそれは……♡
もう……♡ 激しい
夜で……♡

キヤ



君はあの子の身体で
造られた写し身だと？



私は彼女の骨身と
ボーンチャイナ
骨磁で造られた――

そうか……つまり君は
彼女そのものじゃあ
ないのか

ええ、残念ですが……
記憶も造られた時点で
掻き消えています

顔の皮は
我慢できなところ
でこのまま……

……さて。
こちらは全て
話しました。

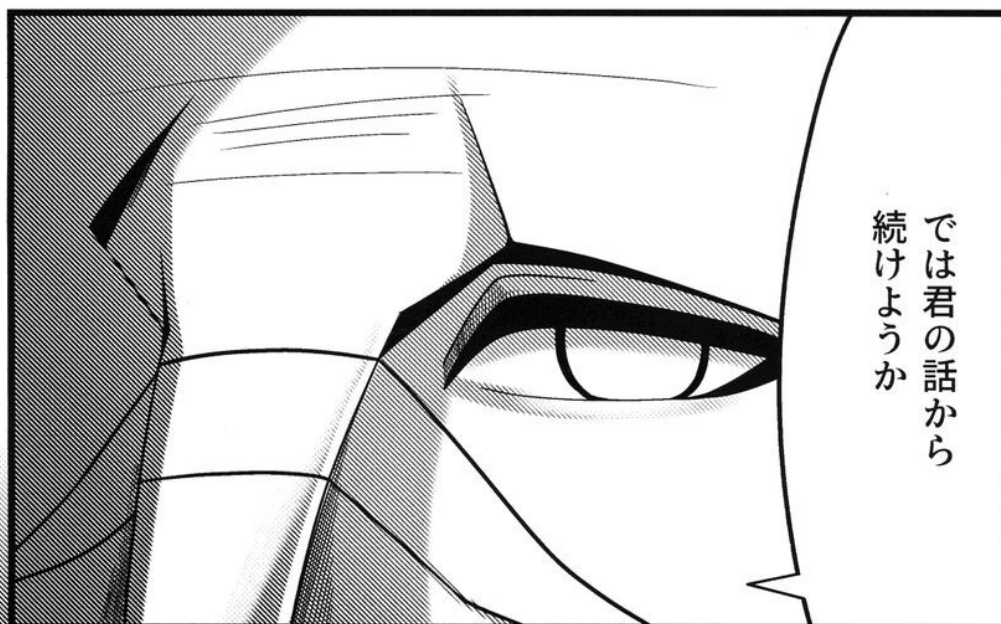
ボーンチャイナ

骨磁の乙女

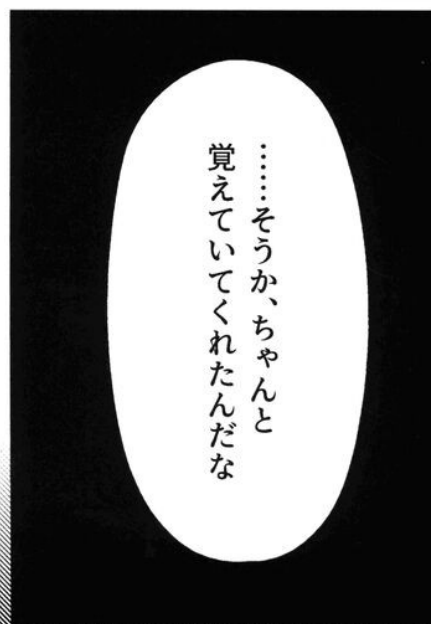
魔女様の愛すべき
ガール
伴侶の一人です。



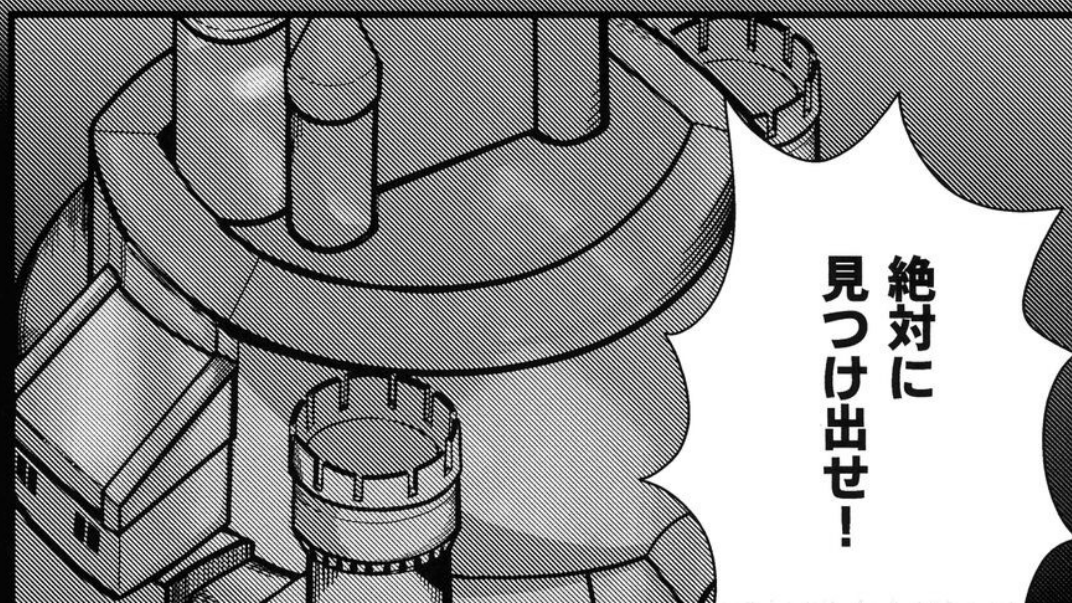
あなたのお話も
聞かせていただけますか？



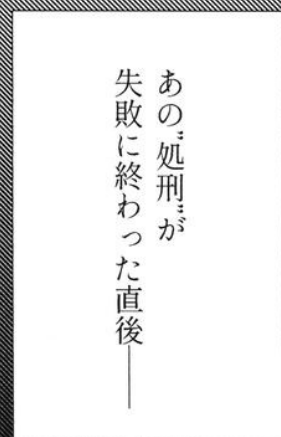
では君の話から
続けようか



……そうか、ちゃんと
覚えていてくれたんだな



絶対に
見つけ出せ！



あの処刑が
失敗に終わった直後――

領主様はこの事実を
外部に漏らさないため、
口封じをする必要があった

草の根を掻きわけてでも
居場所を探し出せ！

奴のこれまでの処遇は
関係ない！

あの男を生かしては
この国を揺るがしかねん！

領主様の要請を受けた
騎士団達は
ある場所へ遠征に出た

魔・女・を・産・ん・だ・村・に、
魔・女・を・都・に・呼・ん・だ・男・を
探して――

案の定
騎士団たちは、

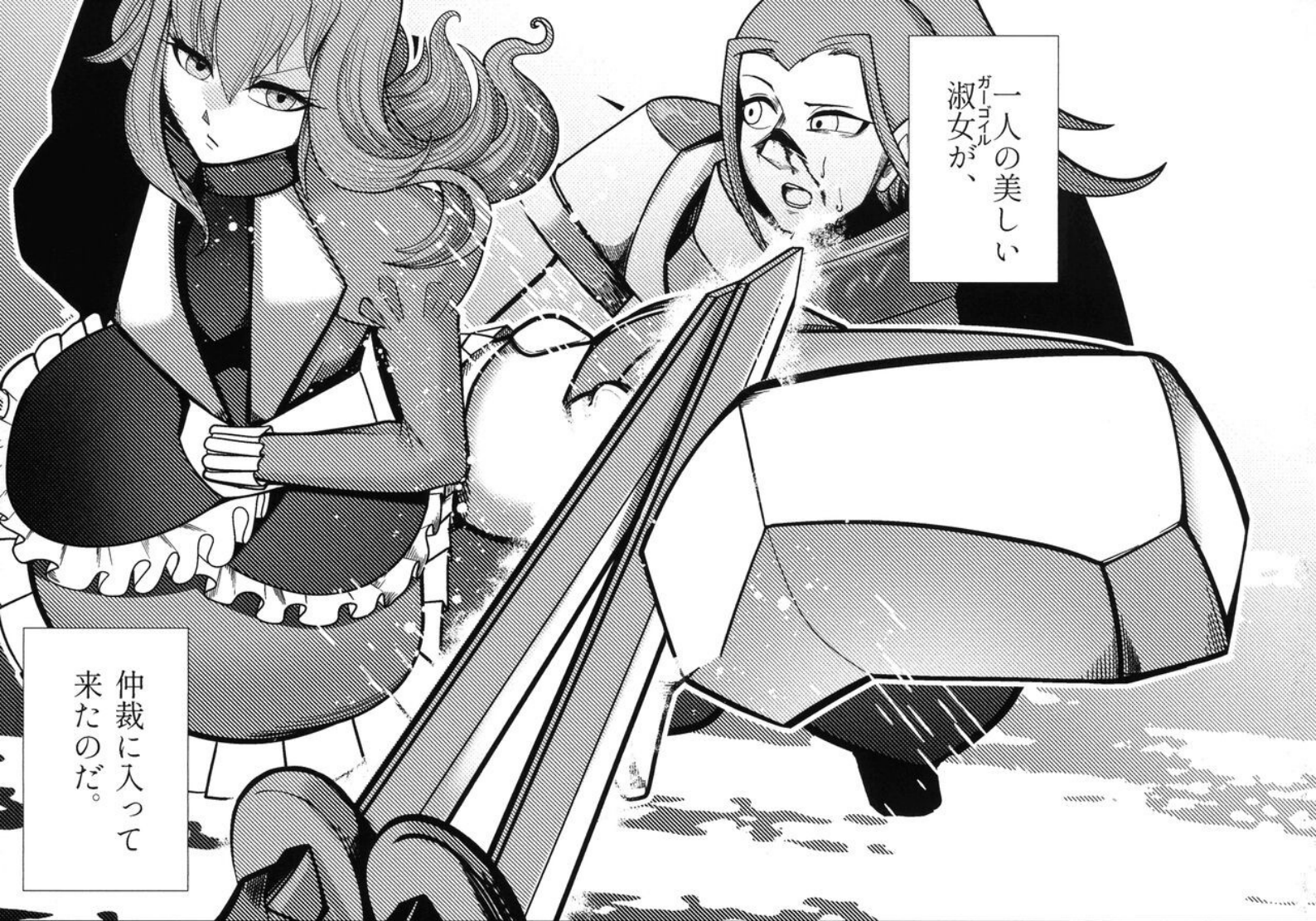
処刑直後から
秘密を知ったまま
城下を抜け出した
元騎士団長が、

魔女を産んだ地の
民として断罪される
であろう村人を

逃がして回っていた
ところを追いつめる
ことになった。

あわや双方玉砕、
誰かの命が
無為に散る
寸前だった、

その時――



一人の美しい
ガール
淑女が、

仲裁に入って
来たのだ。



君は――



彼女に武器が
通じず、また
敵意がないのは
皆わかっていたので

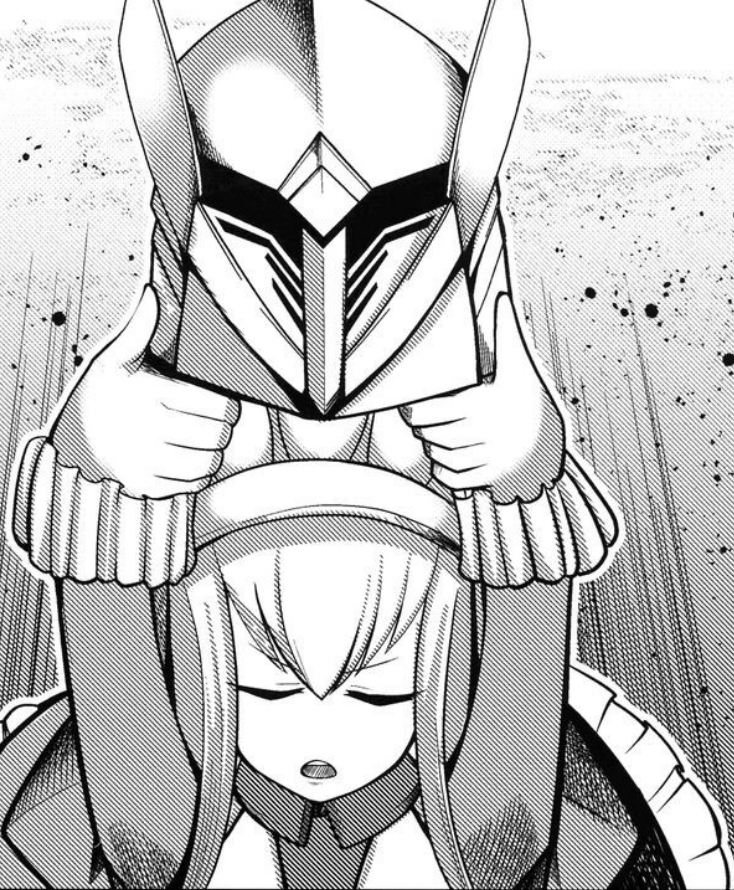
彼女が提示した
妥協案を皆が
受け入れざるを
得なかった

そこからは随分と簡単に済んだ。



金高の兜を持ち帰り。それを
打ち取った証とするようにと……

頭を下げられてはもう
反論する者はいなかった。



ああ、でも……
これから逃げ隠れる
のであれば、

森の中の最も
大きな木の根を
掘り起こしてください。

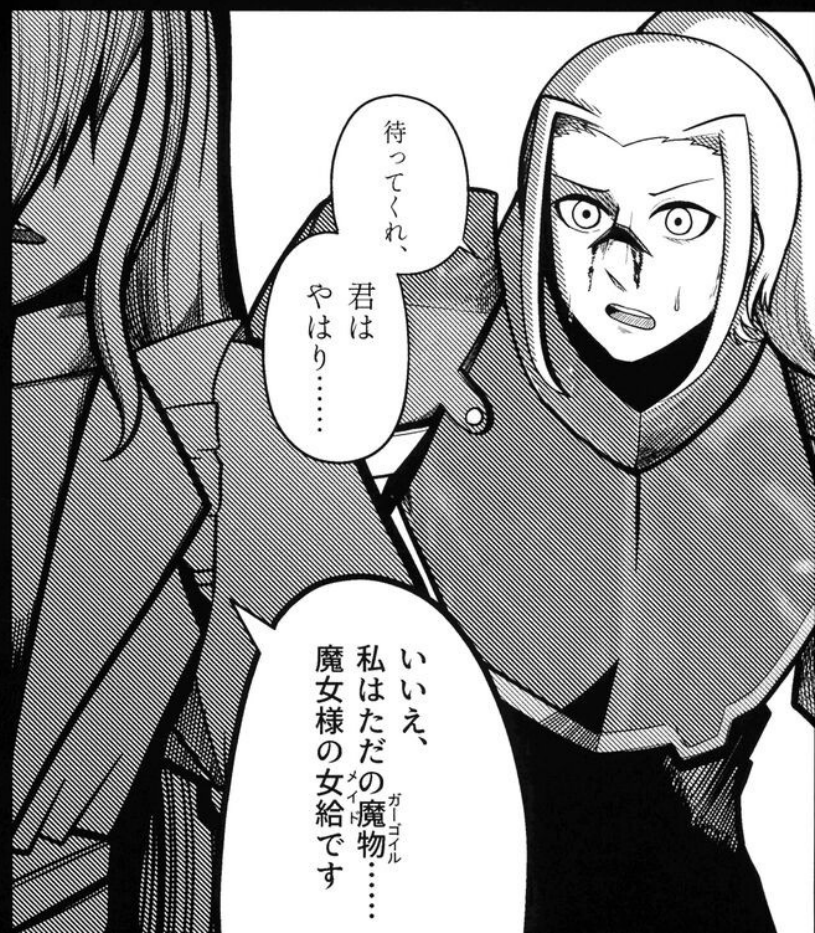
前のメイドが
造った茶器が
埋まっています。

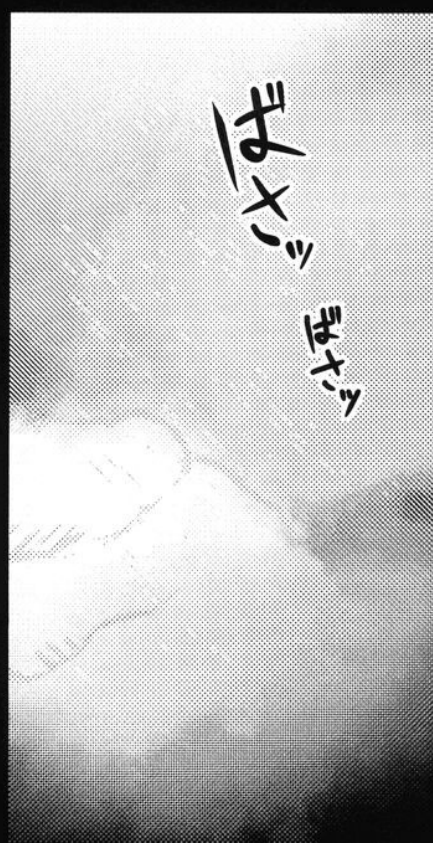
売りに出せば
新天地の暮らしの
足しになるでしょう

待ってくれ、

君は
やはり……

いいえ、
私はただの魔物……
魔女様の女給です





半世紀ぶりだね、
女給さん。



……君はずっと
変わらないんだね

聖剣国エスパルディエ城下領
元騎士団長

"金鷹"グラウロス・アレード

お久しゅう
ございます、
アレード様。



変わる事こそが
人の美德ですよ

さて、
もう夜が
明けそうですね

……そういえば、
魔女様に何を
頼むつもりで？

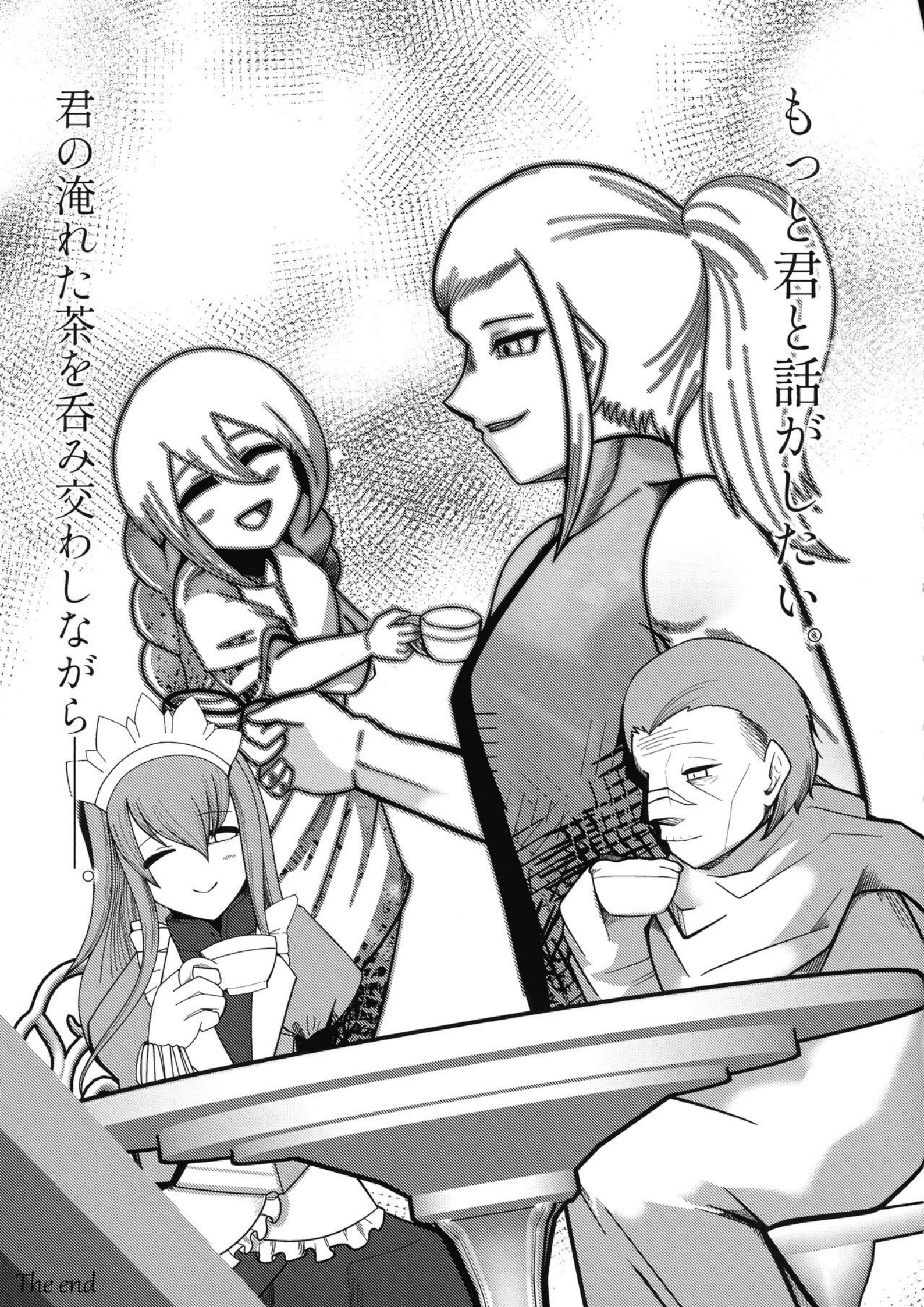
魔女に茶器を
返すつもり
だったんだ

だが……
君の様子が見れた
だけで満足だ

せっかくだ、
久しい再開を
祝って

もつと君と話がしたい。

君の淹れた茶を呑み交わしながら――



あとがき

どうも、くろつちです。

第一作、「石工の魔女と村娘」の発行から約1年。

ようやくシリーズ第3作完成でございます。

当初、本シリーズを作成したときは原案の喜納子さんが書いてくれた
「Togetteerまとめの原案第一作を同人にする」ことをノルマとしていました。

色々思うところはあるわけですが、

マンガとしてのお話を再構築するにあたって色々手を加えたりはしたので、
まだまだ作品として未練というか思い残りがあるもんです。

だってなにより……

エッチなシーンあんまり描けてない！！！！

……はい、お話作りとスケベを両立できなかったのが非常に悔やまれる。

なもんで、次回のコミティアでは骨磁の乙女と魔女様のがっつりふたえっち本
「石工の魔女と骨磁の乙女 -乱(ラフ)-(仮タイトル)」を出す予定です。

どうぞ次回作もよろしくお願いいたします。

くろつち

石工の魔女と骨磁の乙女 -精(ディティール)-

発行 2024/05/26

印刷 株式会社栄光

サークル ドリルイヤリングカンパニー
(booth <https://not-6.booth.pm/>)

製作者 くろつち(Twitter @rezanofffffu)

原案・協力 屑望喜納子(@motikinako_kuzu)

この同人誌はオリジナル作品です。

ご感想・ご意見などはくろつちのTwitter
(Xではない、断じてXではない)および
質問箱等にいただけると幸いです。